

大切な 甲賀市の自然

18

甲賀市内にすむ
絶滅が心配される動植物や
それらを育む大切な
自然についての連載です

野洲川の
河原の生きもの
カワラハハコと
カワラバツタ



▲カワラバツタ



▲カワラハハコ

大きな河川には石ころや砂地の広がった河原があり、そこには、乾燥やたびたびの増水に負けない生き物があります。甲賀市では野洲川、杣川、大戸川と大きな河川がありますが、石ころの河原が残る川は野洲川だけです。このような川は全国的にも少なく、滋賀県下でも数えるほどになって、河原に適応した生き物がすむ環境は、どんどん狭まってきています。

カワラハハコは秋の初め、野洲川の石ころの多い砂地の河原で群生します。白い小さな花が、茎の先に集まって咲きます。茎はよく枝分かれして、葉は細く、裏面にやわらかい毛が生えています。乾燥してドライフラワーとして利用できます。

カワラバツタはやはり河原に住み、8～9月に成虫になる、日本固有種です。「大切にしたい滋賀の野生生物」(2005)では希少種です。

河原の石ころの色によく似て、バツタが動かない限り、どこにいるかわかりません。翅は長く、後翅に鮮やかな青色の斑があり、石から石へ飛び移るときに目立ちます。

河川や湿地など水辺の環境は、開発などの改変を受けやすく、ここにすむ生き物を絶滅危惧種にしてしまいました。このような生き物との共生が、今後の大きな課題です。

9月の
休園日

3日(月)、10日(月)、18日(火)、25日(火)

みなくち子どもの森自然館

☎ 63-6712 FAX 63-0466

甲賀市文化協会連合会 文芸欄

今回は甲賀町文化協会からお寄せいただきました。

甲賀町俳句同好会 北川溪舟選

- ・ 祇園祭男意地の辻回し 瀬古 一露
- ・ 梅雨明けし窓を賑わす濯ぎ物 山下きよの
- ・ 京祇園乙女の黒髪類を撫ぜ 曾和きくえ
- ・ 指揮をとる蟻ほどの蟻蟻の列 山下 鈴霞
- ・ 名利を訪えば静かな蟻地獄 藤原 耕生
- ・ 梅雨明けて意気投合の狹プラン 藤橋阿さ江
- ・ 一匹の蟻にてこずる雑魚寝かな 村長喜代子
- ・ 肅然と波御に揺れゆく祇園鉾 中井よしの
- ・ 梅雨の明け新樹がおどる陽の交差 中島てる子
- ・ 下駄履きの素足の似合う祇園祭 奥山 康雄

鹿深句会 桑田美智子選

- ・ 曲水に人型流し宴を閉ず 桑田美智子
- ・ トラクター行き交う農道麦の秋 大北 のぶ
- ・ 煌めきを乗せたたみ来る卯浪かな 山下 美幸
- ・ 代掻きの水面に老いの影揺らぐ 茂田 悦子
- ・ 万緑を抱く山肌磨崖佛 堀 小夜子
- ・ 緑陰に安珍眠りし道成寺 松島 初江
- ・ 天城越え天地揺るがす七つ滝 前田よしゑ
- ・ 浜木綿や黒潮の海波静か 藤縄よしみ
- ・ 色と香のひろがる丘や百合の花 山下 淑子
- ・ 青梅の枝先までもたわわなる 林井 道乃

甲賀川柳 井上謹三選

- ・ 南極の殿堂に入り寒さ知る 桑田 次雄
- ・ 温暖化富士山いらぬ雪帽子 藤橋阿さ江
- ・ 絵本読む母の声するなつかしや 藤橋 淑子
- ・ 温暖化スキー場にはゴルフ客 奥山 康雄
- ・ この人もゲートの合間目葉す 藤原 良子
- ・ 旬の物判らなくなる温暖化 隠岐 信子
- ・ 嫁に出た娘も嫁嫁に出し 山下とめの
- ・ クラス会幹事元気でまだ続く 岡本みつ子
- ・ 嫁さんにもう任しても大丈夫 立岡 由子
- ・ 温暖化南の魚北上す 北川 溪舟

次号(10月1日号)は、土山町文化協会です。